

こんにちは

日本共産党
県議会活動報告
週刊ニュース

2013年2月24日 NO.746



きらとみひこ

吉良富彦です

事務所 吉良富彦事務所 855-9439 愛宕商店街
議会控室 823-9524 県議会内

ご参加ください 原発・福島の惨禍 未来に生かす

●1月20日付の本ニュースでお伝えしました、作家：たくきよしみつ氏の講演会（主催：上智大学OB会「高知ソフィア会」）が迫ってきました。

復興に向けた除染や防波堤建設ひとつ取ってみても「原発村・利益共同体」と同様の体質が見られるのでは？いま、福島はどうなっているのか？東電は、政府は、自治体は、そして住民や子どもたちのくらしぶりは？

講師の被災体験を通してそれらの実情にふれ、2年前の災禍を未来に生かす契機となる講演会にしたいと考えています。皆さん、ぜひ、おいで下さい。

「フクシマ」をどこか遠くの土地の話だと思っていませんか？
まずは現地で何が起きているのかを知ってください。

緊急講演

裸のフクシマ

～原発30キロ圏内で暮らしていた著者が真実を語る～

福島第一原発から25キロメートルの福島県川内村に住んでいた作家のたくきよしみつさんは、2011年の東日本大震災で原発事故に遭いました。本講演では、たくきよしみつさんに原発事故直後から現在のフクシマの現状を語っていただきます。時が経ち何が問題だったのかを忘れてしまわないように、みんなで一緒に考えましょう。

3月9日(土)

【参加費】無料 【定員】240人
【開場】12時30分 【講演】13時～15時



高知文化ホール
高知市本町3-2-15 高知新聞放送会館東館7階

原発事故後の福島をレポートした著書が朝日新聞など各書評、メディアで話題に!!

【講師】
たくきよしみつ氏
作曲家・作家。1955年福島市出身。上智大学外国語学部英語学科卒業。1991年、原子力、エネルギー問題、現代文明の闇をテーマにした小説「マリアの父親」で第四回小説すばる新人賞受賞。作曲の他、小説、狛犬美術、デジタル文化など多方面で著作多数。2004年から福島県阿武隈山中の川内村に居住。2011年、東電福島第一原発から25kmの自宅で原発被災。その体験から「裸のフクシマ」(講談社)、「3.11後を生きてきたたちへ 福島からのメッセージ」(岩波ジュニア新書)を執筆。
【WEBサイト】 <http://takuki.com/>



裸のフクシマ
原発30km圏内で暮らす
(講談社)



3.11後を生きてきたたちへ
—福島からのメッセージ
(岩波ジュニア新書)

主催/高知ソフィア会 後援/高知市教育委員会、高知新聞社、高知放送、上智大学ソフィア会
お問い合わせ/TEL:088-832-8555、携帯:090-6283-1085 永野健生税理士事務所まで



町内会で学習会 2月8日、私が住む吉田町愛宕3丁目町内会で昨年12月に県が発表した南海トラフ巨大地震の強度、津波浸水予測の被害想定と具体的な対策・避難方法について学習会を行いました。知る事が地震への自信を生み、対応気力を高めてくれました。

無料 法律相談

3月28日(木)午後6時～8時

弁護士 山本尚吾さん

場所 吉良富彦事務所(愛宕商店街)

TEL 855-9439